

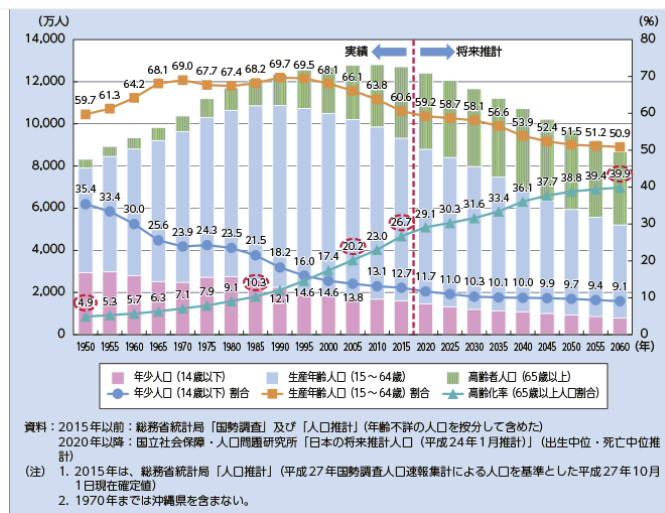
人口減少 X 危機多発時代の 人々・コミュニティに求められる看護の現場と役割

神原咲子

神戸市看護大学教授/日本災害看護学会理事/日本学術会議連携会員



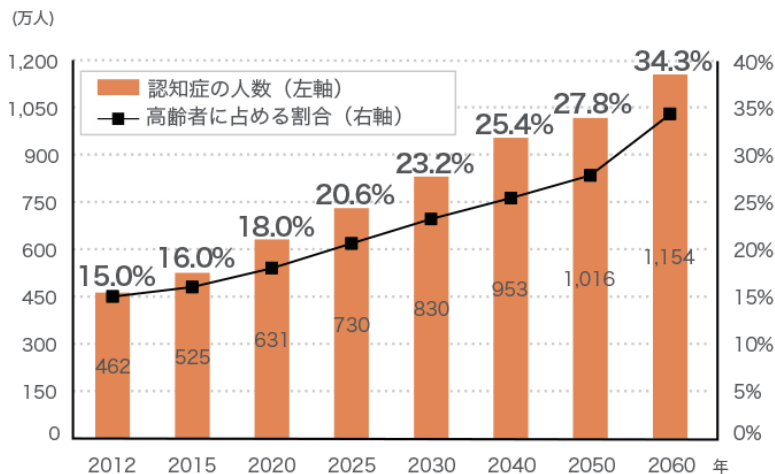
背景：年齢3区分人口及び高齢化率の推移



2

平成28年版厚生労働白書

背景：日本における認知症の将来推計



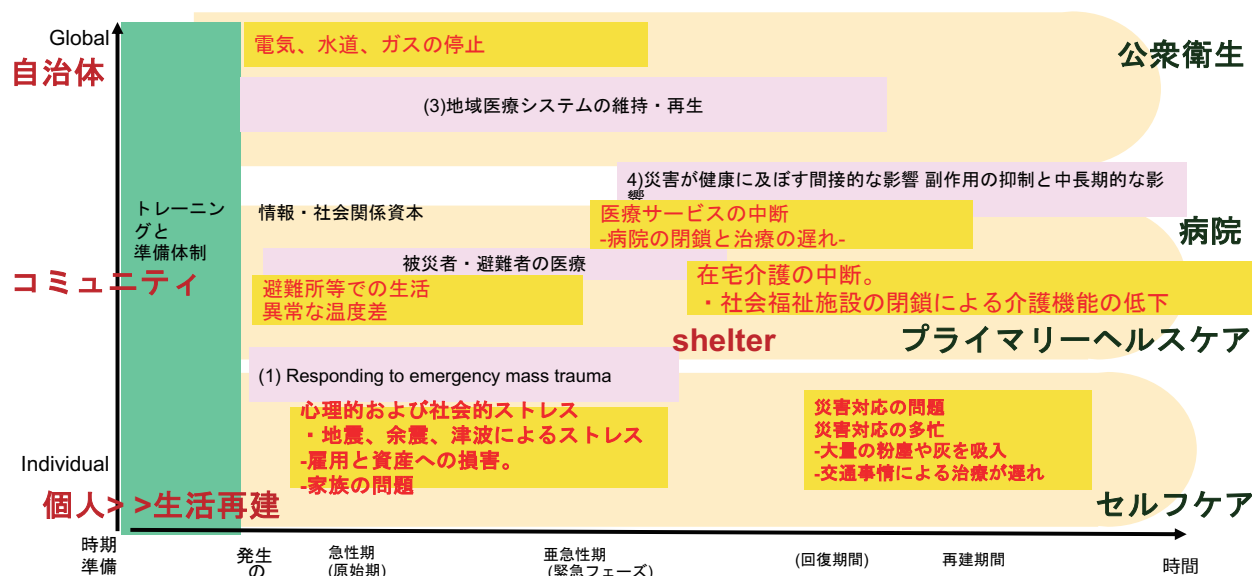
背景：看護師の求人倍率、22年度は2.15倍と5年間で上昇

(18年度のは1.68倍)

- スキルアップのための研修も「高いレベルの技術が求められる現場。コロナ禍で業務が増え、心身共に疲弊した」
 - 感染や濃厚接触による欠勤のしわ寄せあった。
- 福祉施設など医療機関以外で看護師のニーズの増加。

鹿児島県看護協会ナースセンター(2022)

震災における災害関連死の要因



Kanbara et al (2022) <https://doi.org/10.1007/978-3-030-98297-3>

人間にとっての健康をまもる日常生活と減災

- ① 正常な呼吸
- ② 適切な飲食
- ③ 老廃物の排泄
- ④ 体を動かし、姿勢を維持する
- ⑤ 睡眠と休息
- ⑥ 衣類の選択と着脱
- ⑦ 正常な体温の保持
- ⑧ 体の清潔の保持と身だしなみ
- ⑨ 環境内の危険を避ける
- ⑩ 他者とのコミュニケーション
- ⑪ 自己の信仰に基づく生活
- ⑫ 達成感のある仕事
- ⑬ レクリエーション活動への参加
- ⑭ 学習を満たす

地域の文化・社会・制度の中で災害
 >>>社会的×潜在的>>複合的に顕在化



まずは、災害リスクの理解

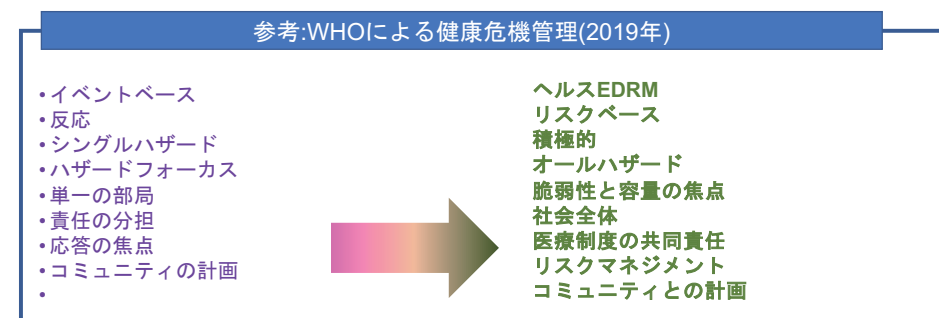
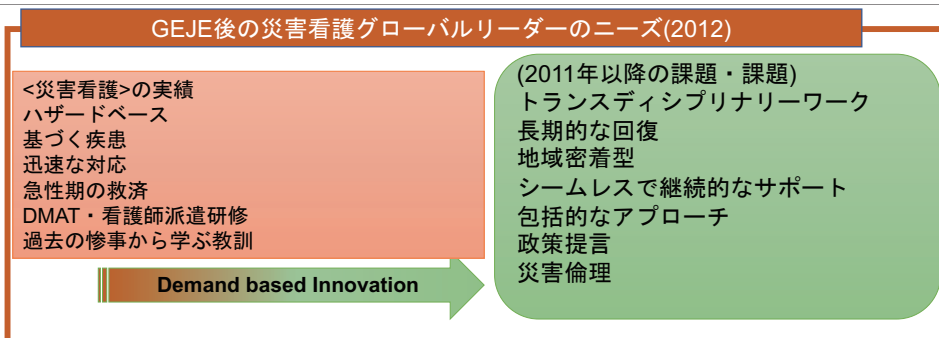
災害がおきたら必要なこと自分と家族は・・・

- a. 災害から逃れる (ハザード)
- b. いのちと健康を守る (脆弱性)
- c. 取り巻く生活環境の立て直す (キャパシティ)

支援者は・・・

- 応急手当 &
- メンタルヘルスケア
- 食事・トイレ・お風呂などの確保

災害看護 = 災害の被害x地域の問題/ (自助・共助・公助)



ローカルナースのインサイト

情報提供者としてのEpiNurse

現場での実務経験:16年
彼女は現地の言葉を話し、彼らの文化を知ることができます



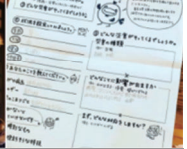
彼女は言った
防災訓練体験番号
病院での災害、雷雨、事故。
地震発生の1年前のWHOによるWASH訓練
震災の余波
医師、CMA、看護師はとても忙しかったです。
調理する食べ物はありません。
PHCは災害管理について知っているが、準備ができておらず、誰と調整すべきかもわからなかった
人手がとても少ない
毎日約150人の患者と4~5人の重篤な患者がベッドにいます。
月に約45件の納入実績があり、他の病院へのアクセスは困難で、地理的な理由により、

モニターとしてのEpiNurse

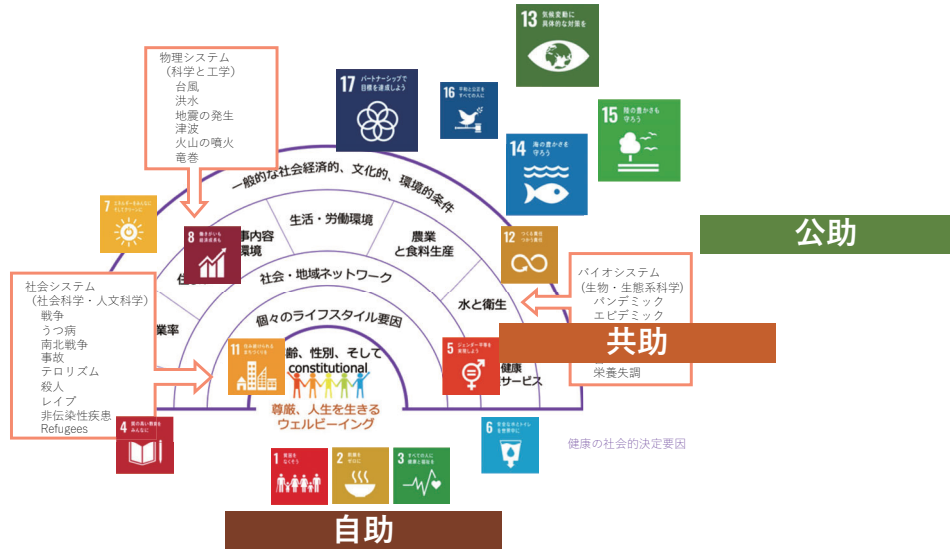
マッピング
健康・環境アセスメント

Toilet 4
Adequate number of toilets Yes
Hand-washing Yes
Soap Yes
clean food No
Kitchen Yes
waste storage No
Acceptable spacing No
Acceptable cleanliness No
Blanket No

ケアギバーとして
報告や入院は必要ないが、直接的なケアと一般的な投薬が必要

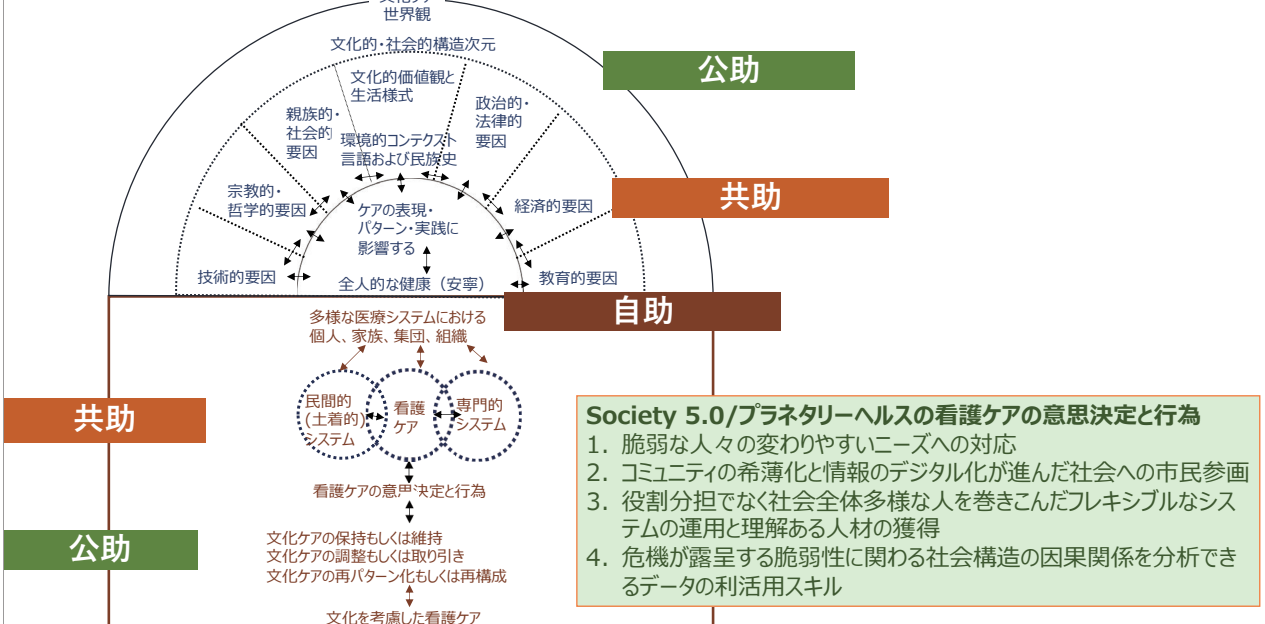


健康の社会的決定要因・減災・SDGsの関係



Dahlgren, G., & Whitehead, M. Policies and strategies to promote social equity in health. Stockholm, . (1991).

多様な地域文化のなかでの看護ケアの意思決定と行為



Leininger's Sunrise Enabler to Discover Culture Care Modified by McFarland & Wehbe-Alamah, 2015

まちの減災ナース

地域防災 + ヘルスプロモーションの再確認

「まちの減災ナース」とは

- 静穏期において地区防災計画をふまえ、減災活動において行政と連携しながら、住民と共に地域特性を考慮した自助・共助・公助を支え、看護専門職として持つ知識と技術、パブリックヘルス、要配慮者の災害関連死の予防と対策、被災者・支援者のこころのケア、ボランティアの健康管理など「実践」的な減災活動を発揮する。
- 「まちの減災ナース」は静穏期だけでなく、**災害発生時**においても、市町村行政担当者や地域住民とともに、被災地の住民の健康と生活に取り組む役割を遂行する。

第2回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」ー災害時医療と理工学分野の連携ー

地域防災に看護師が参画！「まちの減災ナース」育成広がる

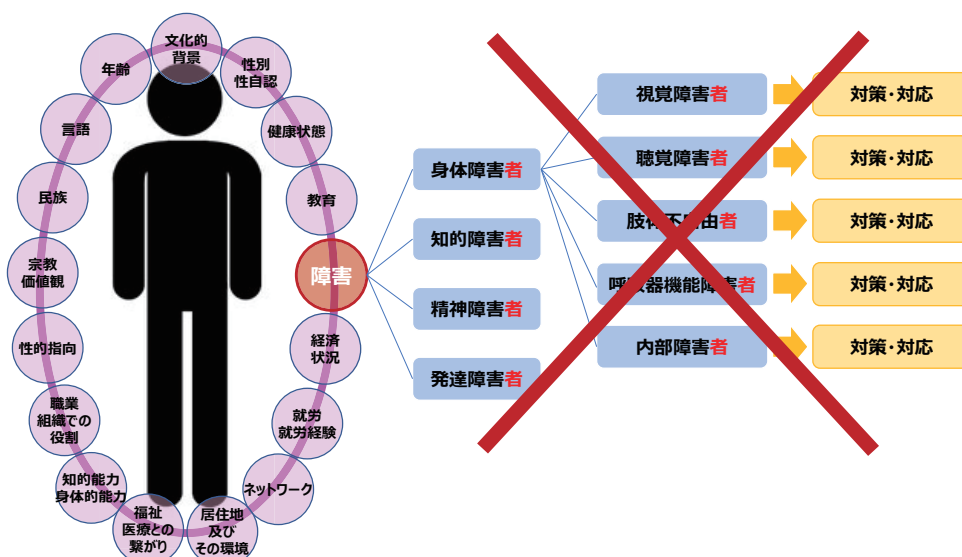
2023/01/16

自治体 医療 啓発

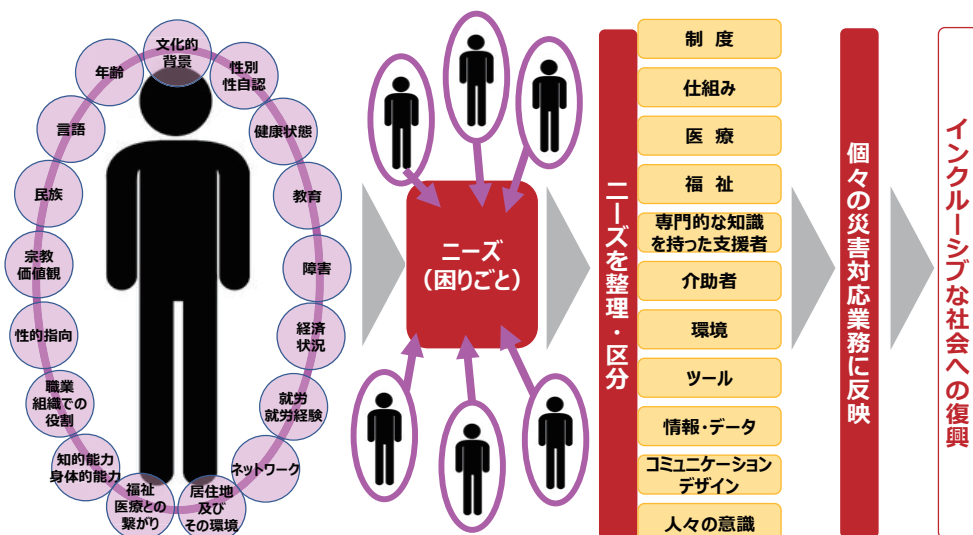


読売オンライン2023/01/16 <https://www.bosai.yomiuri.co.jp/biz/article/8548>

個別避難計画 >>> 配慮すべき人を区分して、対応を導くのではなく・・・



配慮すべき人のニーズが人の暮らしの中にあり、減災につなげる必要がある



(共助) 地区防災計画>>>

防災計画—計画的防災対策の整備・推進

- ・中央防災会議 : 防災基本計画
- ・指定行政機関・指定公共機関 : 防災業務計画
- ・都道府県・市町村防災会議 : 地域防災計画
- ・市町村の居住者・事業者 : **地区防災計画**

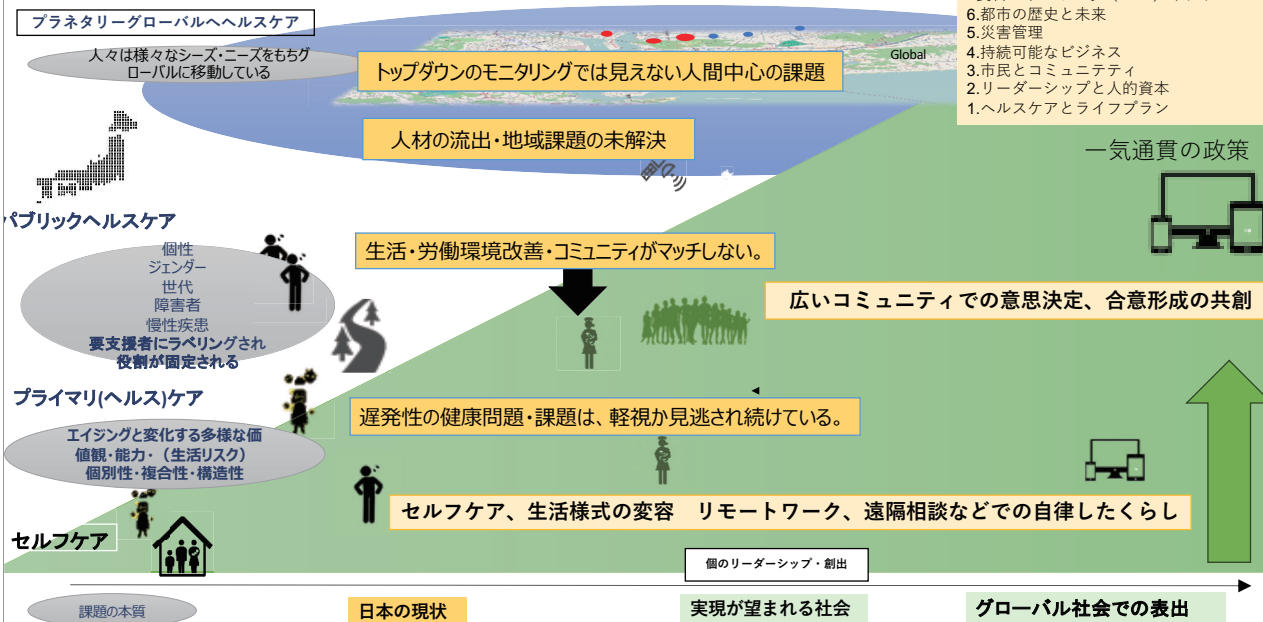
①平常時	②発災直前	③災害時	④復旧・復興期
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 避難訓練 (情報収集共有伝達訓練を含む) ・活動体制の整備 ・連絡体制の整備 ・防災マップ作成 ・避難路の確認 ・指定緊急避難場所、指定避難所等の確認 ・要配慮者の保護等地域で大切なことの整理 ・食料等の備蓄 ・救助技術の取得 ・防災教育等の普及 啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・共有・伝達 ・連絡体制の整備 ・状況把握 (見回り・住民の所在確認等) ・防災気象情報の確認 ・避難判断、避難行動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の安全の確保 ・出火防止、初期消火 ・住民間の助け合い ・救出及び救助 ・率先避難、避難誘導、避難の支援 ・情報収集・共有・伝達 ・物資の仕分け・炊き出し ・避難所運営、在宅避難者への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者に対する地域コミュニティ全体での支援 ・行政関係者、学識経験者等が連携し地域の理解を得て速やかな復旧・復興活動を促進

人中心・包摂的・健康・配慮の視点が必要

・消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携

地区防災計画ガイドライン (2014)

地域課題と災害看護のアクションの方向性



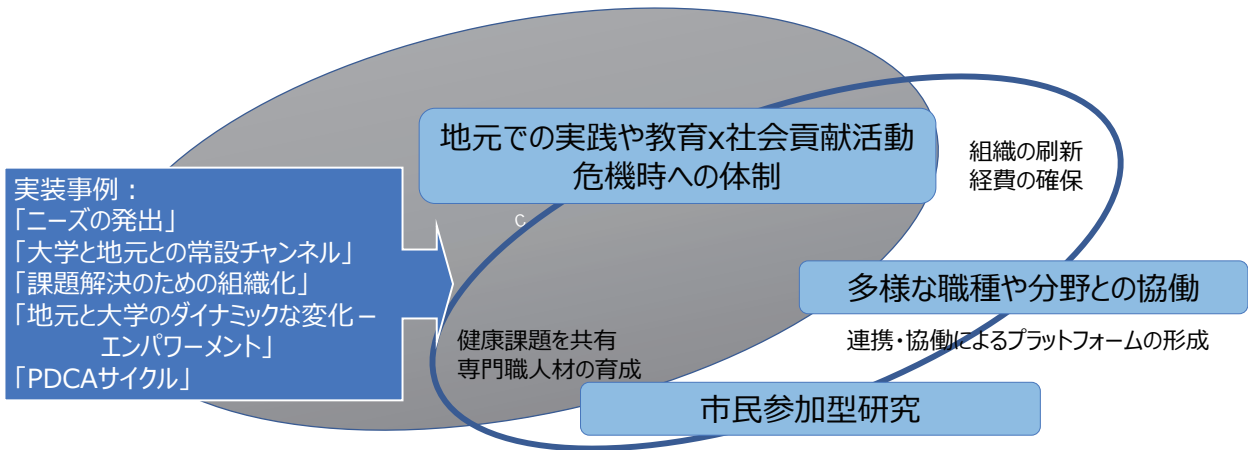
「地元創成看護学」

「地元(home community)の人々(population)の健康と生活に寄与することを目的として、社会との協働により、地元の自律的で持続的な創成に寄与する看護学」

「看護の対象集団・組織等が所在する地域、または看護系大学等の組織の理念や趣旨に根差す特定の集団」

(地理的境界もしくは共通の特性でかたどられる社会集団)

- ✓ 少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会の到来
- ✓ 自然および社会の変化による健康危機の多様化と増大
- ✓ 「地元」固有の健康課題に即した対応方策の必要性



報告「With/after コロナ時代の地元創成看護学の実装」

高度実践看護師と看護の役割拡大

危機の時代にチャレンジする高度実践看護師の未来

日時: 令和5年7月23日(日) 13:00~16:00
場所: オンライン開催(オンデマンド配信あり)
総会司会: 西村ユミ (日本学術会議第二部会、東京都立大学教授)
開会挨拶: 望月 眞弓 (日本学術会議副会長)、慶應義塾大学名誉教授 武田 洋幸 (日本学術会議第二部長、京都産業大学生命科学部教授)
趣旨説明: 小松 浩子 (日本学術会議第二部会、日本看護学会協議会監事、日本赤十字九州国際看護大学学長)
(講演)
13:20~13:40 「地域ケアの協働の未来に必要な職量とは」 折戸 雅恵 (公益社団法人地域医療振興協会 公立久米島病院 日本看護系大学協議会アースプラクティショナー)
13:40~14:00 「診療看護師(NP)の導入後の体制構築とは」 本田 和也 (独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 統括診療部 脳神経外科(診療看護師(NP)))
14:00~14:20 「どのように制度を拡張していくべきか(実際の活動)」 市川 智里 (国立がん研究センター がん看護専門看護師)
14:20~14:40 「医師からみるAPNの設置拡大の必要性とは」 一戸由美子 (むさしの丘ファミリークリニック 院長)
14:40~15:00 休憩
(総合討論)
15:00~16:00 司会: 神原 咲子 (日本学術会議連席会、神戸市看護大学教授) 新福 洋子 (日本学術会議連席会、広島大学副学長)
(指定発言)
鎌倉 由衣 (日本看護系大学協議会代表理事、日本赤十字豊田看護大学学長) 栗田 康生 (一般社団法人日本NP教育大学院協議会理事、国際医療福祉大学教授) 富田俊男 (早稲田大学理工学術院教授、医療法人ADEN みいクリニック理事長)
主催: 日本学術会議健康・生活科学委員会 健康・生活科学委員会看護学分科会 共催: 一般社団法人日本看護系学会協議会 後援: 一般社団法人日本NP教育大学院協議会 公益社団法人日本看護系学会協議会 公益社団法人日本看護協会

専門性や活躍場面

- ✓ 高度な臨床判断と思考プロセス、患者管理の共有
- ✓ 医療の高度化やタスクシフトへの対応
- ✓ 地域やプライマリ領域での役割拡充は急務
- ✓ 看護提供の重層化による看護能力向上

医師(他職種)との協働

- ✓ 看護分野の多彩な専門性によるヘルスケアの質の効果を向上
- ✓ 看護コアコンピテンシーの共有
- ✓ 医師との連携を強化
- ✓ 新しいアプローチを模索

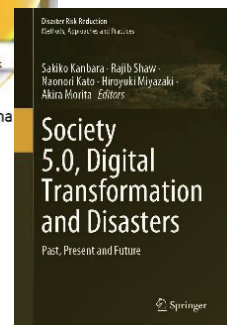
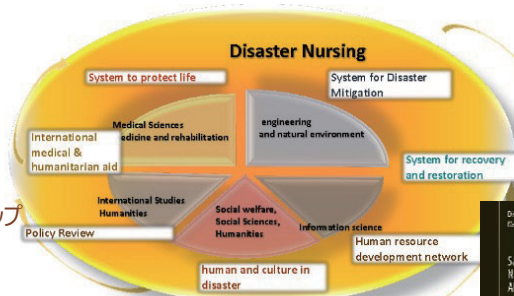
法的権限やインセンティブ

- ✓ 法的に明確な判断と責任能力
- ✓ 専門性に対するインセンティブ
- ✓ 具体的な展望
- ✓ 現場や地域での活動による患者ケアの質向上の可視化

日本学術会議公開シンポジウム「危機の時代にチャレンジする高度実践看護師の未来」

Work with the ISC to advance science as a global public good

1. 学際連携から超学際性へ
2. 知識社会のプラットフォーム
3. オープンガバナンス・オープンデータ
4. グラスルーツ・プロセス・イノベーションと市民科学
5. 若者のリーダーシップ
6. 新たに発展する分野としてのサイエンス・プレナーシップ



↑Intradisciplinary

↑Interdisciplinary

S. Kanbara et al (ed) 2022

Save the date. Call for the proposal will start April.



The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing

<https://wsdn2024.com/>

メインテーマ

変化するリスク環境における災害看護の再考

ー 地球と人々の健康のプライマリ・ヘルスケアからソーシャル・イノベーションへ ー

開催日

2024年11月29日(金)～12月1日(日)

会場

神戸市看護大学(神戸市西
JR新神戸駅から約35分、三宮駅から約30分)

演題募集

<演題の種類>

ご協力・ご参加どうぞよろしくお願いたします。
4月頃演題登録開始
日本災害看護学会のWebで新着情報確認
お願いたします。